

1. [1. 街と街をつなぐ
そのばで
人と人をつなぐ]

2. [街と街をつなぐ
そのばで
人と人をつなぐ]



街と街をつなぐ そのばで 人と人をつなぐ



大江戸パークマネジメント始めます

contents

- ・ 神田を考える
- ・ 神田警察通りを考える
- ・ 空地植栽を考える
- ・ そばを考える
- ・ イベントを考える
- ・ つながりを考える

大江戸野菜研究会と神田



☆「第4回神田地域パークマネジメント部会」

千代田区の神田地域(旧神田区)は都市公園の無い地域ですが、近年、大型の都市開発や歩道拡幅などの計画により緑地や広場が新しく生れてきています。また開発に伴う各地域のエリアマネジメント組織や活動も動き始めました。

こうした緑地や広場を神田各地のエリアマネジメント組織や地域NPO、住民、そして域内の企業、大学、商業施設、公共空間(児童公園や河川公園、道路空間や公共施設)の事業者や管理運営者が共同でまちづくりを行う空間として何らかの統一的なガイドラインが必要となってきました。

事例としては街路樹や民間緑地の植栽の統一や組み合わせ、生れる広場のハード、ソフトの整備と運営にかかわる効果的な手法の開発などがあります。こうした地域の空間を公園と見立てたマネジメントの試みを「神田パークマネジメント」と位置付けています。

大江戸野菜研究会と神田



☆「第4回神田地域パークマネジメント部会」

第3回までの提案で桜の町並みづくりとして「駿河台匂い」や「そば」を植え、食のイベントと連動するなどの提案が出て参りました。今回はこうした提案の実現の為に具体的な活動方法や組み合わせる賑わいづくりや地域ブランディングなどについて議論していくものです。

また、第2回ではランニングステーションやサポートcafeなどの設置と存続性の担保なども議論となりました。住民や勤務者の運動健康支援のできる企画が求められています。

初めての参加者、また神田地域以外の参加者も大歓迎です。オープンイノベーションの場として異分野の方々の連携も促進していきます。



神田といえは？

神田を考える



神田明神

神田祭

学問の街

スナール用口店街

文化継承

老

蕎麦の老舗

職人街

古書街

カレー店街

楽器街

電気街

神田を考える



神田＝多様なイメージ

- 一見するとイメージ良く聞こえますが、人を集める要素が多く分散していて、人も分散してしまう。
 - 趣味趣向が多様化した現在では、変化のスピードが速く、その変化に街が置き去りにされていく。
 - この現実が、今後のまちづくりのヒントになるのでは？
- 今回は神田警察通りを考えます。

神田警察通りを考える



つなぐまち 神田

- 「人をつなぐ」
- 「まちをつなぐ」
- 「歴史をつなぐ」
- 「文化をつなぐ」
- 「緑をつなぐ」

歴史・学術ゾーン



- ・文教・学術施設が集積
- ・歴史的な建造物が個性豊かな景観を形成
- ・オープンスペースが不足

文化・交流ゾーン



- ・神田警察通りのほぼ中央に位置
- ・周辺に比べまちの特徴が薄れつつある
- ・オープンスペースが不足

食・賑わいゾーン



- ・神田駅を中心に多数の来街者で賑わう
- ・飲食店をはじめ、数多くの店舗が立地
- ・比較的居住人口が多い

整備構想におけるまちづくりの目標（左）、3つのゾーンと現状（右）

※神田警察通り沿道賑わいガイドラインより引用

空地植栽を考える



写真例：ワテラス



個々の開発用地に創られる空地は、その建物に即したランドスケープデザインにより植栽樹種が決まります。ただこうした自由設計は、街全体を通した一体感を創り出すことは難しくなります。観光資源として成功する植栽地の多くは、同一樹種の大規模植栽です。たとえば千鳥ヶ淵のサクラ（品種は様々）、足利のフジ、秩父のシバザクラ、座間市のひまわり、富良野のラベンダー。この通りに作り上げるのは、時間がかかり、合意形成も難しいでしょう。しかし街路樹を全て植え替えるという事例はまちづくりの絶好のチャンスだと考えます。街路樹と接道部の植栽の統一化、地域に於けるのブランディング植物を儲けるなど植物を街作りに活かしていきたいと考えます。当研究会では、後者のブランディング植物の設置を提案します。

地域を考える



大江戸野菜研究会は、神田地域に於ける
ブランディング植物案として

1つの提案

をしたいと思います。

神田とそばを考える



神田の食として代表的な物は

蕎麦です。

NPO法人大江戸野菜研究会では、ブランディング植物として地域各所の空地の一角に栽培地を、若しくは専用プランターを設置し、そばを栽培しそれを活かしたまちづくりを提案します。まずは、新旧100店舗以上のそば屋が存在する神田。そのルーツを簡単に紐解いていきましょう。

神田とそばを考える



神田の蕎麦について

江戸の町に、日本橋・京橋ができたのは寛永9年（1632年）の頃といわれ、「本郷もかねやすまでは江戸の内」といわれたのは寛文10年（1670年）とされております。その江戸に「蕎麦～、蕎麦～」と江戸の「けんどん蕎麦切り」が初めて登場したのは、寛文4年（1664年）のこと。柳原、呉服橋、御持院ヶ原にて客の袖をひいた夜鷹に人気を博し、江戸中に広がったと「守貞漫稿」に記されております。また現在のそばの原型といわれる二八蕎麦の始まりは、「衣食住記」によると、「享保半ごろ、神田辺りにて二八即座けんどうという看板を出す。」というのが最も古く、1730年頃にこの神田の地に店売りの二八蕎麦屋があったことを教えてください。

ちなみにけんどんとは江戸っ子の言葉の「つっけんどん」から来ており、愛想がない様子の呼び方で、転じてそばのおかわりをしないさまを指していたとも言われています。

蕎麦

神田とそばを考える



神田の蕎麦について

二八に関して言えば、粉の割合説、 $2 \times 8 = 16$ 文の値段説とがあります。その蕎麦屋にも、万延元年（1860年）頃には「蕎麦高値ノコトニ係リ、江戸内蕎麦店会合ス、其戸数3763店也」と書かれるほどに普及しました。現在の東京の町の広さや人口が約10分の1だった江戸時代に、現代以上の蕎麦屋がひしめいていた事になります。これは「江戸わずらい」といわれた「脚気」の薬として白米の5.4倍のたんぱく質、ビタミンBを含む蕎麦を江戸っ子たちは1日1食食べていた事になります。また、作り方（切りペラ24本という細切り）等食べ方（汁を蕎麦の2/3つけて噛まずに食べる）等にも江戸っ子としての粋がちりばめられ、ますます蕎麦が人気の食べ物となりました。

蕎麦

そばを考える



蕎麦とは

蕎麦（そば）は、穀物のソバの実を原料とする蕎麦粉を用いて加工した、日本の麺類の一種、および、それを用いた料理である。今日、単に「蕎麦」と呼ぶ場合、通常は蕎麦切り（そばきり）を指す。中華そばなどと区別して日本蕎麦（にほんそば）とも呼ばれる。



そばを考える



蕎麦栽培のメリットと留意点

- ①ソバは播種から収穫までの期間が稲、麦などに比べ非常に短い。
 - ・種蒔き後、4～5日で発芽し、30～35日目頃に開化最盛期を迎え、70～80日で収穫適期となる。
- ②気候に対する適応性の幅が広い。
 - ・火山灰地や開墾地、さらに土壌の乾燥に強いこと、吸肥性が強いことなど、生育の条件に余り影響されない、やせ地でもよく生育する手間のかからない作物。
- ③ただし霜には弱いため、霜の降りる前に刈り取らねばならない。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
寒冷地	蒔時						○	---	○				
	収穫									■	■	■	
温暖地	蒔時								○	○			
	収穫											■	■

そばを考える



蕎麦栽培の手順

主産地における標準的なソバ栽培技術の要点は次のとおりである。

①耕起・整地

耕起の深さは15cm程度で、通常ロータリーで耕起・整地を行うが、碎土（さいど）はできるだけいねいにする必要がある。人工地盤上では、培養土を20cm敷設し、畝を作ればよい。プランターでも可能。



そばを考える



蕎麦栽培の手順

②播種方法および播種量

ソバの播種はすじまき（条播）※左側写真、ばらまき（散播） いずれでも良いが、土寄せや薬剤散布を行う場合はすじまきとする。
各作期とも早まきほど少量でよい。10m²に60g程度が標準。



そばを考える



蕎麦栽培の手順

③施肥

施肥は前作によっても異なるが、他の作物にくらべ少量でよく、一般的に吸肥力の強い作物とされている。とくに、窒素を多用するとかならず過繁茂になり倒伏するので、十分な注意が必要である。一般には、窒素質の少ない畑作用の化成肥料が用いられるが、可能な限り堆肥を施用することが望ましい。



そばを考える



蕎麦栽培の手順

④管理

ソバは他作物にくらべ手間のかからない作物である。生育が非常に早いので雑草をおさえる利点をもっている。したがって、すじまきでは雑草の繁茂状態により開花までに中耕・土寄せを一回行い、除草と兼用すれば十分であり、ばらまきでは不必要である。また、ソバは、根の張りが浅く、茎も軟弱なため、深めの土寄せは倒伏防止にとって効果的である。



そばを考える



蕎麦栽培の手順

●収穫・脱穀・乾燥・調製

ソバの栽培にとって最も労力のかかるのは収穫以降の一連の作業である。収穫後の乾燥および玄そばの調製は、天日または通風乾燥が望ましい。また、収穫後の圃場における後熟（こうじゅく）および乾燥に際しては十分な配慮が必要であり、小規模の栽培では島立やハザかけの上にビニールがけをして雨を避けると品質が低下しない。



そばを考える

普通そば栽培暦（1年2作体系の例）

	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月																
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下															
生育経過																																		
作業	排水対策 石灰散布 窒素施用 耕うん、播種					(耕うん・雑草対策)					収穫 乾燥 調製					排水対策(7月中旬まで) 石灰散布(7月中旬～下旬) 窒素施用(7月中旬～下旬) 耕うん、播種(7月下旬～8月上旬)					収穫 乾燥 調製													
作業のポイント	<p>ほ場選定・排水対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 排水不良は場は避ける。 標高知では明渠、暗渠、弾丸排水などを組み合わせる。 <p>地下水水位50cm以上 降雨後半日以内に 地表水排水</p> <p>幅間明渠 ほ場内排水溝 (4～6m間隔)</p> <p>石灰・肥料散布</p> <ul style="list-style-type: none"> 上稈条件に合わせて行う。(前作の減肥を考慮する) 過剰施肥は対候の発生につながる。 <table border="1"> <tr> <td>窒素</td> <td>リン酸</td> <td>カリ</td> </tr> <tr> <td>1～3kg</td> <td>4～8kg</td> <td>5～10kg</td> </tr> <tr> <td>土壌pH</td> <td colspan="2">消石灰</td> </tr> <tr> <td>6.0前後</td> <td colspan="2">80～80kg/10a</td> </tr> </table> <p>標準施肥量(各kg/10a)</p> <p>耕うん・砕土・整地</p> <ul style="list-style-type: none"> 刈込は播種直前に行う。(雑草対策) アップカッター等を用いて表層の砕土率を上げる。(右図) 砕土率70%以上、耕起深15cm <p>表層の砕土効果が高い</p> <p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> 適期に播種する。 条間は30～50cm 乾透した生かみ草が生じやすい。 <p>播種時期</p> <table border="1"> <tr> <td>夏そば(春播き)</td> <td>4月下旬</td> </tr> <tr> <td>秋そば(夏播き)</td> <td>8月中旬</td> </tr> </table> <p>は種量(kg/10a) ドリル・突は…4～5 散ば…7～8</p> <p>病害虫・雑草防除</p> <ul style="list-style-type: none"> 病害虫対策は耕種防除を主とし、基本的に薬剤防除は行わない。(ハスモンヨトウ等に注意、早期発見に努める) そばは生育が早いため、抑草効果が大きい。(雑草防除には培土が有効。) <p>そばに登録のある農薬は少ない。 耕種対策…速作回灌、排水性の向上、播種直前の耕起、開花期前の培土、窒素肥料を控えるなど</p> <p>収穫・脱穀・乾燥・調製</p> <ul style="list-style-type: none"> 収穫は晴天の日中に行い、脱穀は低速・低回転で丁寧に実施する。 収穫時期の目安 ・バインダ等…黒化率60～70% ・コンバイン…黒化率70～80% <p>黒化率80%</p> <p>乾燥時は、製粉が円くなる水分80%までは通風乾燥、その後は通常(連続乾燥)の方式で乾燥する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 送風温度は35℃以下(製温30℃)、仕上げ水分は18%。 																		窒素	リン酸	カリ	1～3kg	4～8kg	5～10kg	土壌pH	消石灰		6.0前後	80～80kg/10a		夏そば(春播き)	4月下旬	秋そば(夏播き)	8月中旬
窒素	リン酸	カリ																																
1～3kg	4～8kg	5～10kg																																
土壌pH	消石灰																																	
6.0前後	80～80kg/10a																																	
夏そば(春播き)	4月下旬																																	
秋そば(夏播き)	8月中旬																																	

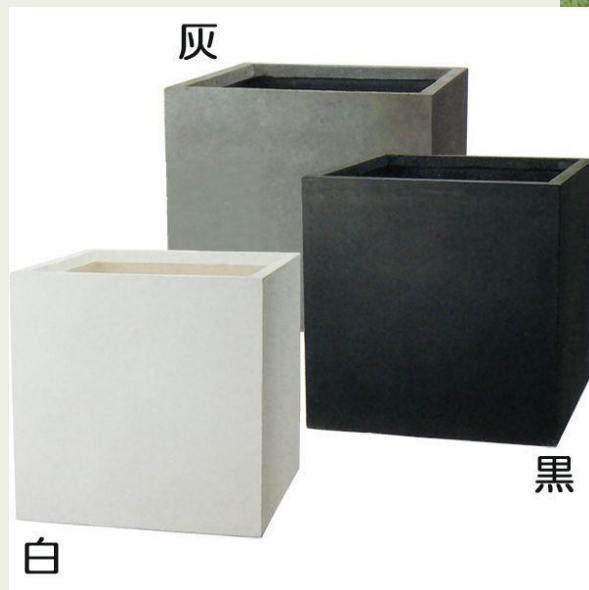
普及を考える 標準体験キットの販売



標準栽培キットの販売：研究会活動費・送料・消費税込

75,600円

- プランター：W550×D550×H550の専用プランター（3色から選択可）
- 土壌・種子



イベントを考える

新たに出来る空地は、利用方法は無限にあります。在勤者と旧住民、そして新たに住む新住民と共有した時間作りは重要になります。時限設置でも可能な畑を各所に設置し、点在する蕎麦屋とコラボし蕎麦栽培を通期イベントとして提案します。

写真は銀座の酒造会社で酒米を栽培した屋上田んぼです。





イベント例

神田 街蕎麦まつり：各地域にて栽培した蕎麦を持ち寄ってイベント化。



Thank You!



www.t...

